

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》 ○教授／遠藤一彦 教授／飯嶋雅弘 講師／松田康裕 助教／油井知雄 助教／山口摂崇 非常勤講師／柳 智哉	教授／斎藤隆史 准教授／根津尚史 講師／川西克弥 助教／永井康彦 助教／中尾友也 非常勤講師／垣野 健	教授／越野 寿 准教授／広瀬由紀人 講師／岡山三紀 助教／佐々木みづほ 助教／川村 尚彦 非常勤講師／大野弘機	教授／越智守生 准教授／豊下祥史 講師／六車武史 助教／菅 悠希 非常勤講師／相良昌宏	教授／伊藤修一 講師／泉川昌宣 助教／建部二三 助教／竹田洋輔
--	--	--	---	--

- 【概 要】**
1. 歯科材料学統合実習（1～8回；前期）
 模擬的な歯科治療の流れの中で、歯科臨床で使用されている金属材料、有機材料および無機材料の種類と用途を学ぶとともに、基本的な材料の取扱法や加工法を習得する。（D-1-①、D-1-④）
2. 歯科理工学実習（9～16回；後期）
 各種歯科材料の基礎的性質を測定することにより、材料の特性を理解する。実習結果を報告書にとりまとめることにより、科学データの取扱い方法と考察方法を学ぶ。

- 【学習目標】**
1. 歯科材料学統合実習
 歯科治療と歯科材料・器械の関係を理解するために、実際の工程に倣った簡単な修復物・補綴物・矯正装置の製作を実施する。一連の実技体験を通して、治療に用いる材料、器械・器具の種類を知り、取り扱い方と加工法の基本を身に付ける。
- ☆ 歯科治療に用いられている代表的な歯冠修復物や補綴装置および矯正装置の構造・機能を説明する。（D-1-①、D-1-④）
 - ☆ 金属の鋳造、レジン の重合および陶材の焼成を説明する。（D-2-⑥）
 - ☆ 修復物や補綴装置を製作する過程で使用される様々な材料や薬剤の役割と効果を説明する。（D-2-①、D-2-②）
2. 歯科理工学実習
 講義で学んだ各種歯科材料の性質を、実際の材料の操作および観察を通してより深く理解する。また、観察および考察事項を文章として適切に表現・記述する力を身に付ける。更に、共同作業の重要性を理解し、医療従事者に求められるチーム行動の基本姿勢を身に付ける。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 3	◎ 印象採得からメタルインレーの作製まで 1. 印象採得と石こう模型の作製 2. ワックスパターンの作製とその埋没 3. 鋳造 4. 鋳造体の研磨と合着	● 印象採得からメタルインレーの作製、そして、歯科用セメントを用いた合着までの一連の作業を実際に体験し、各種の歯科材料がどのように使用されているのかを説明できる。 ● アルジネート印象材、超硬質石こうを用いて、歯牙模型から石こう模型を作製する。 （D-2-①、D-2-③、D-2-④） 間接インレーワックス、クリストバライト埋没材を用いてワックスパターンの作製とその埋没を行う。（D-2-⑤）ワックスパターンを焼却し、ブローパイプと遠心鋳造機を用いて鋳造を行う。（D-2-⑥）鋳造したメタルインレーを研磨し、模型歯にセメントで合着する。（D-2-⑦）	遠藤 一彦 斎藤 隆史 伊藤 修一 根津 尚史 泉川 昌宣 松田 康裕 建部 二三 永井 康彦 油井 知雄
4	まとめ1	● 1～3回の実習に関連した課題をまとめたレポートを作成、提出する。	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
5 6	◎ 義歯床用アクリルレジンとの重合 1. ろう義歯の作製と埋没 2. アクリルレジンとの重合 3. 義歯の取り出しと仕上げ研磨	● 粉液重合法を用いてレジン床義歯の一部を作製し、義歯の製作方法とその過程で使用する材料について学ぶとともに、レジンとの重合反応を理解する。 (D-2-⑥) ● 人工歯とパラフィンワックスを用いてろう義歯を作製し、普通石こうを用いて重合フラスコ内に埋没する。ワックスパターンを除去し、餅状になった粉液混合物を填入して加圧した後、2ステップ法で加熱重合する。重合した義歯を石こう型から取り出し、その表面を研磨して仕上げる。 (D-2-④、D-2-⑥)	遠藤 一彦 越野 寿 根津 尚史 豊下 祥史 川西 克弥 建部 二三 佐々木 みづほ 菅 悠希 竹田 洋輔
7	まとめ2	● 5～6回の実習に関連した課題をまとめたレポートを作成、提出する。	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三
8 9	◎ セラミックスの焼成 1. 金属の前処理 2. オペーク陶材の築盛と焼成 3. デンティン陶材とエナメル陶材の築盛と焼成	● メタルフレームと陶材を溶着させることによって、陶材溶着鑄造冠の製作過程について学ぶとともに、陶材の焼成方法を理解する。 ● 金属のサンドブラスト処理及びディガッシングを行う。前処理を施した金属上にオペーク陶材を築盛し、コンデンスした後に電気炉内で焼成する。デンティン陶材とエナメル陶材を同様に築盛、コンデンス後に焼成する。金属と陶材が強固に焼付いているかどうか調べる。 (D-2-⑥)	遠藤 一彦 越智 守生 根津 尚史 廣瀬 由紀人 建部 二三 山口 摂崇
10 11	◎ 成形充填とろう付 1. ろう付 2. 成形充填	● 多くの歯科技術のうち、成形修復及び金属のろう付を実際に体験し、それぞれの材料がどのように用いられるのかを学ぶ。 ● 銀ろうを用いて、金属線を自在ろう付法で接合する。 (D-2-⑥) ● 模型歯に形成された窩洞にコンポジットレジン及びガラスアイオノマーセメントを充填する。 (D-2-①、D-2-⑦)	遠藤 一彦 飯嶋 雅弘 根津 尚史 六車 武史 岡山 三紀 中尾 友也 川村 尚彦 建部 二三
12	まとめ3	● 8～11回の実習に関連した課題をまとめたレポートを作成、提出する。	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三
13	◎ 材料の機械的性質 1. 外力と材料の変形	● 歯科材料の外力による変形の臨床的意味を学ぶ。 (D-1-②) ● 応力-ひずみ線図の要素（比例限、弾性限、耐力、強さ、弾性率、弾性変形、塑性変形）を理解する。 (D-1-②) ● 材料の引張試験で得られた荷重と変形のデータから応力-ひずみ線図を作成し、主要な要素を読み取る。弾性係数、特に弾性変形と塑性変形の意味を理解する。 (D-1-②)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機
14	◎ 材料の物理的性質 1. 材料の熱膨張の測定	● 歯科材料の熱膨張係数の臨床的意味を学ぶ。 (D-1-②) ● 歯質を修復材料の熱膨張係数の違いと二次齲蝕発生との関係について理解する。 (D-1-②) ● 金属とセラミックスの線膨張係数を測定し、金属焼付陶材冠における両者の熱膨張係数のマッチングについて理解する。 (D-2-②) ● 埋没材の加熱膨張を測定し、膨張機構を理解するとともに、鑄造収縮の補償法を理解する。 (D-2-⑥)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
15	◎ 歯冠修復用レジン 1. コンポジットレジンのフィラー含有量の測定 2. コンポジットレジンの硬さの測定	● コンポジットレジンを電気炉で焼却して残る残渣としてフィラー含有量を求める。 (D-2-①) ● コンポジットレジンの機械的性質は、フィラー含有量とモノマー組成の影響を受ける。ここでは、フィラー含有量の異なるコンポジットレジンの硬さを測定し、コンポジットレジンの物性におけるフィラーの役割について学ぶ。 (D-2-①) ● 光重合型コンポジットレジンの硬化深さを未重合モノマーの拭き取り後に測定し、光重合型コンポジットレジンの適用厚さと重合の不均一性について理解する。また、材料の操作を通してコンポジットレジンの練和操作を習得するとともに重合の機構を理解する。 (D-2-①)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機
16	◎ 歯科用セメント 1. 硬化時間の測定 2. 圧縮強さの測定	● 各種歯科用セメントの材質と特性を学ぶ。 (D-2-⑦) ● 針入度試験によって、セメント練和泥の硬化の進行過程を調べるとともに硬化時間を知る。 (D-2-⑦) ● インレーやクラウンに咬合力が加わった場合、歯とインレーやクラウンの間に介在するセメント層には、主として、せん断力と圧縮力が作用する。ここでは、グラスアイオノマーセメント、ポリカルボン酸塩セメント及びリン酸亜鉛セメントの機械的強度を比較するために、それぞれの圧縮強さを測定する。 (D-2-⑦)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機
17	◎ 金属組織 1. 金属組織の観察 2. 鑄造欠陥の観察	● 結晶粒を微細化した金合金の組織観察を行い、合金の凝固過程を考察し、金属組織と機械的性質の関係を検討する。 (D-2-⑥) ● 鑄造欠陥を観察し、その成因と防止法を習得する。 (D-2-⑥)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機
18	◎ 金属の強化 1. 銅の引張試験 2. 金銀パラジウム合金の時効硬化	● 金属材料の強化法を学ぶとともに、強化前後の機械的性質の変化を理解する。 (D-1-②) ● 加工硬化および焼なましを施した銅棒の引張試験を行い、引張強さと伸びを求める。また、それらの応力-ひずみ線図を作成し、引張強さ、耐力、弾性限、比例限の意味を理解する。さらに、加工硬化および焼なましによる機械的性質変化を理解する。 (D-1-②) ● 金銀パラジウム合金に溶体化処理及び時効硬化処理を施し、硬さの変化を測定し、熱処理による金属材料の強化法を理解する。 (D-1-②)	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機
19	まとめ 4	● 13～18回の実習に関連した課題をまとめたレポートを作成、提出する。	遠藤 一彦 根津 尚史 建部 二三 大野 弘機

【評価方法】

1. 歯科材料学統合実習

◇ 実習 1 はレポート（100％）により評価する。

- ・ 歯科理工学Ⅱは講義（前期定期20%、後期中間25%、後期定期25%）と実習（実習1 20%、実習2 10%）で構成される。
- ・ 到達度の低い評価事項の解説と学習法指導を行う。

2. 歯科理工学実習

◇ 実習2はレポート（100%）により評価する。

- ・ 歯科理工学Ⅱは講義（前期定期20%、後期中間25%、後期定期25%）と実習（実習1 20%、実習2 10%）で構成される。
- ・ 到達度の低い評価事項の解説と学習法指導を行う。

【備考】

教科書 : 1. 歯科材料学統合実習
「歯科材料学統合実習書」生体材料工学分野 編

2. 歯科理工学実習
「歯科理工学実習書」生体材料工学分野 編、「基礎歯科理工学」医歯薬出版

参考書 : 1. 歯科材料学統合実習
「基礎歯科理工学」医歯薬出版、「スタンダード歯科理工学（第7版）」学建書院、「コア歯科理工学」医歯薬出版、「要説歯科材料学」医歯薬出版

2. 歯科理工学実習
「スタンダード歯科理工学」（第7版）学建書院、「コア歯科理工学」医歯薬出版

【学習の準備】

1. 歯科材料学統合実習

- ☆ 予習は、あらかじめ実習書を読み、実施内容を理解しておく（80分）。
- ☆ 復習は、実習書、教科書等の資料を利用して、当日与えられた課題を解く（160分）。

2. 歯科理工学実習

- ☆ 予習は、事前に告示された実施課題について実習書を読んで実施内容を熟知する（80分）。
- ☆ 復習は、実習時間内に実施した課題内容を関連する歯科理工学講義の資料、ノートで確認する（80分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を歯科理工学の観点から修得する（専門的実践能力）。
- DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を歯科理工学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。
- DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯科理工学の観点から身につける（自己研鑽力）。
- DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を歯科理工学の観点から習得する（多職種が連携するチーム医療）。
- DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な材料および技術に関する知識を、歯科理工学の観点から習得する（社会的貢献）。

【実務経験】

斎藤隆史、越野 寿、越智守生、伊藤修一、飯嶋雅弘、広瀬由紀人、豊下祥史、泉川昌宣、松田康裕、川西克弥、岡山三紀、建部二三、油井知雄、永井康彦、佐々木みづほ、菅 悠希、竹田洋輔、山口摂崇、柳 智哉、垣野 健、相良昌宏（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

1. 歯科材料学統合実習：実務経験が豊富な教員の指導の下、テーマごとに実際の診療の一部を抽出した模擬治療の形式で実習を行うことで、学生が材料・器具・器械に関心を持ち、講義にスムーズに移行できる効果が期待される。
2. 歯科理工学実習：材料や技術に精通した実務経験を持つ教員が歯科材料・器械の取扱いを臨床の立場も踏まえて教授することで、講義で学んだ基礎事項と臨床の関連を深く理解する効果が期待される。